

平成23年度人権尊重作文
小学生の部最優秀作品

※掲載者の学校、学年は平成23年度のものです



人権月間を振り返って

馬山小学校 五年 田村 優奈

私は、人権月間でたくさんのことを学びました。

道徳の「すれちがい」という授業では、広い心をもって相手を思いやることについて考えました。その中で、セトモノという相田みつをさんの詩を知って「すごくいい詩だな。」と思いました。その詩のことを母に話すと、「みつをさんと同じ気持ち。」と言っていました。私もみつをさんの気持ち、なんとなく分かるような気がしました。特に私の中では、「どっちかやわらかければいいじょうぶ やわらかいころをもちましよう そういうわたしはいつもセトモノ」という所が強く心に残っています。どちらかがやわらかければいいじょうぶ。けんかにならない。きずつかないし、われてしまうこともない。だから、「私がやわらかくなるう。」そう思います。でも心では強く思っても、なかなかすぐには実行できないのです。だから「そういうわたしはいつもセトモノ」の所が自分と同じように感じられました。

また、人権ようご委員の今井先生がお話してくださった時は、自分の心のみがき方について考えました。じゃがいものいい所さがしでは、二つぐらいしか意見がでなかったのに、悪い所さがしでは、「きたない。」や「やわらかい所があつて気持ち悪い。」など、たくさん悪い所が出ました。私は、じゃがいもの気持ちを考えてみたら、「このままだと心にながあいてしまいそう。」と思いました。ずっとじゃがいもを見ていたら、悪口が増えていくたびにじゃがいもが少し

ぼんでいくように感じて、「じゃがいもが自分だったら・・・」と思うとなみだがあふれてきそうになりました。私は、そんな悪い所ばかりに目を向けるのではなく、よい所をたくさんさがせる人になって、心がくもらないようにみがいていきたいと思いました。

五年生では、人権月間の目標を「相手の気持ちを考えて、自分がされていやなことはしない。」と決めました。その目標を守るように毎日ふり返りをしたり、相手がいい気持ちになることをして、人のためカードに書き、教室にはり出したりしています。初めの方は、「今日は何かいことしたっけ。」とか、「書くことが無い。」などと言っている声が教室から聞こえていましたが、今ではしっかりといいことをしようと心がけて、すらすら書いている人が多くなりました。私も、トイレのスリッパをほかの人の分までそろえたり、そうじの時に低学年の子がとどかない所をふいたりしました。良いことをしたら、自分の心も温かくなりました。

私は人権月間を通して、「自分だけを大切に思い、自分のことだけを考えるのではなく、まわりの人のことも考え、まわりの人の心も大切に。」ということを学びました。今までの私は、自分のことを一番に考えすぎてしまっている所もあったので、これからは六年生に向けて「まわりの人のことにも気が付けて、やさしい人になる。」を目標にして生活していきたいです。

人権標語 最優秀作品

だれにでも さしだす その手 思いやり

西牧小3年 神戸陽佑

NHK前橋放送局よりお知らせ

群馬で県域テレビ放送が始まります 平成24年4月スタート

ほっとぐんま640

月～金 18:40～18:59
総合テレビ【4月2日(月)放送開始】

地域のニュース

インタビュー 話題の人・活躍する人	地域の話 町の話題や最新の動き	リポート・解説 地域の課題を追求	生活・趣味講座 生活の1ランクアップ	週末情報 イベント案内
----------------------	--------------------	---------------------	-----------------------	----------------



このほか、選挙報道、高校野球などの県民の皆さまの関心の高い事柄についても適宜取り上げる予定です。また、県域放送に加え今後も群馬県の情報を関東全域や全国向けに積極的に発信します。

